

《研究報告》

# デジタルアーカイブを活用したイスラーム地域研究から デジタル人文学への貢献： その現状と展望

須 永 恵美子\*

## Contributions from Islamic Area Studies Using Archives to Digital Humanities: Status and Perspectives

Emiko SUNAGA

Research at the intersection of digital humanities and Islamic studies is expanding, with publications like *The Digital Humanities and Islamic & Middle East Studies* exploring the application of digital tools in fields such as history and literature. New journals like the *Journal of Digital Islamicate Research* further this trend. In Japan, the collaborative work of editors Emiko SUNAGA and Wakako KUMAKURA resulted in the publication of *Isuramu Dejitaru Jinbungaku* (Digital Islamicate Studies) by Jimbun Shoin in 2024. This book combines Islamic studies with digital humanities, exploring the intersection of technology and research in the context of Islam.

Ethical considerations and collaborative efforts are crucial in leveraging digital transformations in Islamic studies. Projects like DREAMSEA in Indonesia not only digitize endangered manuscripts but also focus on community engagement and education. However, challenges remain, such as the dominance of Western scholars in digital humanities and the nascent academic infrastructure in Middle Eastern countries. Overcoming these challenges will require continued interdisciplinary collaboration and exploration, aiming to uncover new discoveries and foster mutual understanding in the field.

キーワード：デジタルアーカイブ、デジタル人文学、人文情報学、地域研究、イスラーム研究  
Keywords: Digital Archives, Digital Humanities, DH, Area Studies, Islamic Studies

---

\* 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所特任助教  
officeofsunagaemiko@gmail.com

## I. はじめに

社会全体のデジタル化の進展（近年はDX＝デジタル・トランスフォーメーションがキーワードとして広まっている）に伴い、「デジタル人文学」（人文情報学、Digital Humanities）が2000年代中頃から生まれてきたが、イスラーム世界の諸地域を対象とするイスラーム地域研究でも、この分野が発展しつつある。欧米を見ると、2016年には、De Gruyter社より*The Digital Humanities and Islamic & Middle East Studies*（デジタル人文学とイスラーム・中東研究）が出版され、デジタルツールと方法論が歴史、文化、文学などイスラーム・中東研究にどのように応用されているかを論じて、注目を集めた。さらに、Brill社より、*Journal of Digital Islamicate Research*というイスラーム研究に特化した新たな雑誌の創刊も予定されている。

デジタル人文学には様々なツールやトピックがあるなかで、イスラーム研究関連において議論が進んでいるのはデジタルアーカイブの分野かと思われる。先述の書籍のなかでもアーカイブやデジタル化、図書館の取り組みについての章が複数あり、歴史的な文献がより広い観点から検討され、異なる情報源が統合されることで新たな洞察が生まれる可能性を指摘している。例えば、アラビア語の書物や写本のデジタル化が、研究の進展のみならず、文化遺産の保存とアクセス改善につながっていることや（Riedel, 2016）、伝統的なアーカイブとデジタル技術の統合が、歴史的記録の不確実性をどのように扱うかについて議論している（Zadeh, 2016）。本報告では、デジタルアーカイブを活用したイスラーム地域研究を進めるため、研究の背景にある問題意識、これまで明らかになった点、今後の方向性について述べる。

## II. 日本におけるイスラーム研究とデジタル人文学の拡がり

2020年に開始された文部科学省科学研究費・学術変革領域研究（A）「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造」（イスラーム信頼学）のなかで、デジタルヒューマニティーズを推進する研究プロジェクトが立ち上がった。これは仏教学が先陣を切ってきた日本のデジタル人文学分野において、初めてイスラームとデジタル人文学を冠した共同研究である。

この研究プロジェクトの代表者である熊倉氏は、コロナ禍にオンラインの勉強会を主催し、イスラーム関連の研究者がデジタル人文学について学ぶ機会を提供していた。そこに筆者も加わり、デジタル技術を使ってイスラーム社会やアラビア語を中心とした言語圏の研究を捉え直すという、始まったばかりの試みを書籍にする計画が生まれた。熊倉氏と筆者は、2024年2月に編著（須永・熊倉, 2024）を出版した。同書は9章と9コラムからなる論集であり、執筆にあたった16人の研究者はそれぞれ歴史や言語、文学、政治学といった人文学を学術的バックグラウンドとしている。扱われている範囲や手法はテキスト分析、史資料のネットワーク分析、分類・整理、クローンやハディースのデジタル化など幅広く、いずれも挑戦的な内容になっている。

デジタル人文学は、テキストを使った人文科学系の学問にデジタル技術を結びつけることで、可視化やその分野の活性化を促す研究である。例えば夜間光データや、GIS（地理情報システム）、ネットワーク分析といった手法は、世界の他の地域や言語にも応用できる。一方で、イスラーム地域もしくはアラビア文字固有の分析上の問題も明らかになりつつある。特に、アラビア文字のテキ

スト化においては、アラビア語やペルシア語、筆者が用いているウルドゥー語を含めて、右から左へ書く言語ならではの処理が必要になる。そして、処理がなされたデータを読み解くには、現地社会への深い理解や洞察力が必要となる。

### III. イスラーム研究とデジタル・トランスフォーメーション

イスラーム研究とデジタル人文学を掛け合わせるにあたり、イスラーム世界のなかで起こるデジタル・トランスフォーメーション（DX）も無視できない。研究に関わる DX として特に顕著なのが、貴重書と呼ばれる写本など資料のデジタル化、オンライン公開である。例えば、欧米の出版大手である Gale 社は中東や欧米の主要な研究機関のアラビア語コレクションを横断するプロジェクトとして、アラビア語資料のデジタル化に 2015 年から取り組んでいる。同じく民間の Brill 社では、13 世紀のイスラーム医学にまつわる写本をデジタル公開しているほか、オランダのライデン大学と共同で、同大学の所蔵するアラビア語、オスマン語、ペルシア語の写本をデジタル化している。一方で、こうした有料データベースは非常に高価であり、知のアクセスへの経済格差を助長しかねない（Gennaro et al., 2023）。

研究倫理という観点からも着目されるプロジェクトとしては、インドネシアを中心に進められている Digital Repository of Endangered and Affected Manuscripts in Southeast Asia (DREAMSEA: 東南アジアイスラーム写本データベースプロジェクト) がある。同プロジェクトでは、各地に散らばる資料のデジタル化・データベース化のみならず、資料の所有者に対する保管方法のレクチャーや若手の教育に取り組むなど、コミュニティの資料の保全と活用に向けた取り組みがおこなわれている（DREAMSEA, 2024）。

### IV. 今後の課題と展望

2020 年から 3 年以上も続いたコロナ禍は、国際的な人の移動を大きく制限するものとなり、筆者を含めて、世界の諸地域を対象とする研究者にとって非常に困難な時代となった。それに対応する一つの手法として、研究 DX を推進して、サイバー空間上にあふれ始めたデータを捕捉し、分析することが提起されるようになった。筆者も、ウルドゥー語圏に対してそのような研究を追求し、特に詩の朗読を含めた音声データの収集と解析を広範囲におこなった（Sunaga, 2023a; 2023b）。その結果、ウルドゥー語が、南アジアのみならず、欧米や日本を含めた非ウルドゥー語圏へのウルドゥー話者の移民・移動によってグローバル化している実態をいっそう深く認識することとなった。

その研究と、本報告のテーマは、デジタル化という面で深いつながりを持っているが、他方で、デジタル人文学は人文学そのものの歴史を背負っており、人文学の対象としてのウルドゥー詩と、その朗読イベント（さらに、そのグローバルな発信）とをどのように統合していくかは、今後の課題となっている。

デジタル人文学の今後について、最後に強調したいのが、そこにおける協働の重要性である。デジタル人文学の分野では、次々と生まれる研究ツールや、一人では目を通せないほどの大量のデータが処理可能となったことにより、共同研究のスタイルが普及している。これは、従来型の分業としての共同研究や論文執筆だけではなく、相談会や勉強会、ハンズオンセミナーといった研究環境

をオープンに整えていく前向きな取り組みでもある。例えば、人間文化研究機構 DH 推進室では、構想の段階での研究に発表とフィードバックの機会を提供している。デジタル人文学の様々なツールや手法を学ぶ場としては、欧米の大学を中心にサマースクールやウインタースクールも数多く企画されている。先述の書籍の誕生のきっかけがオンライン勉強会にあったように、分野の垣根を越えた研究者同士のコミュニケーションから、新たな着想や創造や生まれる好循環が定着してほしいと切に願っている。

筆者は 2024 年 3 月にシャルジャ・アメリカン大学で開催されたデジタル人文学をテーマとする国際会議に出席する機会を得た。出席者には伝統的な教育を受けてきた言語学や文学を専門とする研究者が多いなか、アラビア語における ChatGPT の運用や、AI 翻訳の語学教育現場への導入に関する発表への高い関心が印象的であった。一方で課題として浮かび上がってきた構造として、デジタル人文学に積極的に取り組むのは欧米で研鑽を積んできた研究者が多く、中東・湾岸諸国独自の学術ネットワークや研究・教育体制は構築中という状況が看取された。この辺りは日本のイスラーム研究とも状況が似ており、これから大いに進展を図るべき分野と言えよう。資料や研究を多角的に見直すことから生まれる新たな発見や、協働のプロセスによる醍醐味を普及すべく、今後も探究を続けていきたい。

※本報告は、科研費・若手研究「デジタル・コミュニケーション時代のウルドゥー語の地位を巡る基礎的研究」（研究代表者：須永恵美子、課題番号 21K17936）、基盤研究（B）「ネット時代に復興する詩と語り物：アジア西方イスラーム圏のオーラル文化の現状と展望」（研究代表者：竹田敏之、課題番号 23H03635）の成果の一部である。

## 参考文献

須永恵美子・熊倉和歌子編（2024）『イスラーム・デジタル人文学』人文書院。

- DREAMSEA (Digital Repository of Endangered and Affected Manuscripts in Southeast Asia). 2024. "Digital Repository of Endangered and Affected Manuscripts in Southeast Asia." <https://dreamsea.co/> (accessed on April 30, 2024).
- Gennaro, Susan, Jennifer Seward, and Dustin Sullivan. 2023. The Future of Open Access, Open Science, and Research Dissemination. *Journal of Nursing Scholarship*, 55(6), 1085-1086. <https://doi.org/10.1111/jnu.12935>.
- Muhanna, Elias, ed. 2016. *The Digital Humanities and Islamic & Middle East Studies*. Berlin: De Gruyter.
- Riedel, Dagmar. 2016. Of Making Many Copies There is No End: The Digitization of Manuscripts and Printed Books in Arabic Script. In Elias Muhanna (ed.) *The Digital Humanities and Islamic & Middle East Studies*, pp. 65-92. Berlin: De Gruyter. <https://doi.org/10.1515/9783110376517-004>.
- Sunaga, Emiko. 2023a. New Developments in Humanities Research Using the 'Next Digital Library': A Study on the Description of 'Halal' in Japanese Historical Archives. In the 1st International Conference on Islamic and Halal Economic Studies (ICHIHES 2023) and 3rd International Conference on Islamic Law, Economics and Finance (SPEKI 2023). Putrajaya Marriot Hotel, Malaysia. 29th November 2023.
- . 2023b Exploring the Potential of Online Urdu Poetry Analysis Using Digital Humanities. In the Asia Pacific Conference 2023, Shaping a New World from Asia Pacific. Ritsumeikan Asia Pacific University, Oita. Proceedings: p.6. 3rd December 2023.
- Zadeh, Travis. 2016. Uncertainty and the Archive. In Elias Muhanna (ed.) *The Digital Humanities and Islamic & Middle East Studies*, pp. 11-64. Berlin: De Gruyter. <https://doi.org/10.1515/9783110376517-003>.